

掲載号	7 月 4 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	研究員 小塚 玲子
題名	トマト黄化葉巻病の防除対策 発病株を抜き取ろう	
備考	【図説明】トマト黄化葉巻病の発病株の除去が累積発病株率に及ぼす影響 (H21 年)	

【本文】

トマト黄化葉巻病は茎の先端の葉が黄化、葉巻症状を示し、株が萎縮するウイルス病です。生育初期に感染すると着果しないこともあるため、被害が大きくなります。千葉県では平成 20 年に全県的に発生して問題となりました。現在は小康状態ですが、注意を要する病害であることに変わりはありません。

トマト黄化葉巻病は、タバココナジラミという微小害虫が、感染した株から健全な株へ原因ウイルスを運ぶことにより伝染します。したがって、媒介虫であるタバココナジラミの防除と、ウイルスを多く保持している発病株の除去が、防除対策の柱となります。タバココナジラミの防除については、0.4mm 目合いの防虫ネットの展張、定植時の粒剤施用、有効薬剤の散布など、多くの対策が取られています。一方、発病株の除去については、なかなか実施できないケースを目にします。

図は、抑制栽培において、定植直後に発病した株を抜き取ったハウスと放置したハウスで、その後の発病株がどのように増えていったかを示したものです。どちらのハウスにも、ごく少数のタバココナジラミが存在しました。発病株を抜き取ったハウスでは、それ以上の病気の拡大は見られませんでした。発病株を放置したハウスでは、最終的に 26%の株に発病が認められました。

このように、発病株の除去は有効な防除法の一つとなります。発病株はウイルスが全身感染していることから、病徴の出していない部位も含めて株全体を抜き取ることが重要です。発生が少ないうちこそ、効果が高い対策ですので、タバココナジラミの防除と合わせ、これからの栽培で防除対策にぜひ取り入れて下さい。

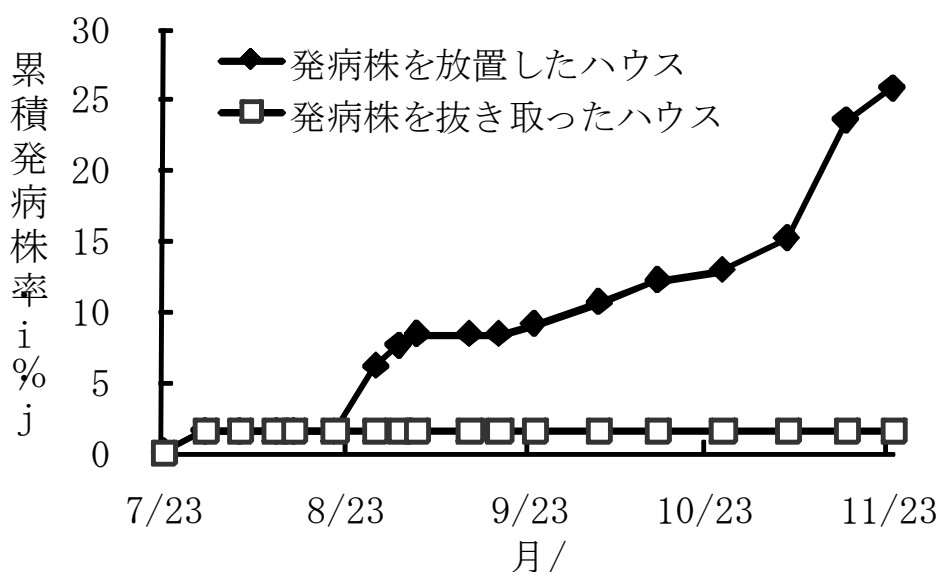


図 トマト黄化葉巻病の発病株の除去が累積発病株率に及ぼす影響 (H21 年)